

◆ 第25回信州自然講座

令和最初の「信州自然講座」は下伊那郡豊丘村で開催しました。通算25回目となる本講座ですが、“村”での開催は今回が初めてでした。天竜川の東岸に位置する豊丘村は、河岸段丘上に果樹園や水田が開かれ、背後の伊那山地にはマツタケで有名なアカマツ林が控えています。この人と自然が織りなす美しい里山景観の中で「南信州の身近な自然と地域づくり」をテーマに開催し、55名の方にご参加いただきました。

日時：2019年11月30日（土）13:00～16:00
会場：豊丘村交流学習センター「ゆめあるて」大ホール
テーマ：「南信州の身近な自然と地域づくり」

○講演・報告

「盆行事からみた信州の生物多様性の変化」環境保全研究所自然環境部 浦山佳恵

「信州の外来生物とその対策」環境保全研究所自然環境部 高野宏平

「長野県における気候変動」環境保全研究所自然環境部 浜田 崇

「福島本村地籍の棚田再生活動」豊丘村本村前田再生委員会 木下英章

「ツツザキヤマジノギクの保護活動」松川町ツツザキヤマジノギク保全協議会 塩倉智文

○ポスター発表（環境保全研究所と地域の活動紹介）

○意見交換会



ツツザキヤマジノギク

前半の当所からの講演3題は、盆行事で利用する植物の変化、外来生物の分布拡大、気候の変化といったそれぞれ異なる視点から信州の自然に迫る危機をとらえ、地域での対策の必要性を訴えるものでした。

続く2題の講演は、地元豊丘村と隣の松川町で活動されている団体の方にそれぞれ活動状況を報告していただきました。



講演の様子

豊丘村本村前田再生委員会の木下さんから、耕作が放棄されて荒れていた棚田を地区の皆さんの協力で再生に至った経緯をご紹介いただきました。棚田が復活して景観がよくなっただけでなく、オーナー制度利用者との交流や棚田で収穫した酒米で作ったお酒など、楽しみながら活動されている様子がよく伝わってきました。生物多様性の第2の危機（里地里山などの手入れ不足による自然の質の低下）に対する活動であり、身近な自然環境の保全が地域の活性化にも繋がっている好事例だと感じられました。

松川町ツツザキヤマジノギク保全協議会の塩倉さんからは、天竜川の河原に生育するツツザキヤマジノギクの保護活動をご紹介いただきました。同種は、花

弁が筒状のキク科の植物で、昭和初期には下伊那地方の東山麓に点々とあったのが、現在では天竜川の河原等でしか見ることができないそうです。その河原も度重なる増水や外来植物の侵入により危機的な状況にあり、松川町や国土交通省を中心に地元の方々が協議会を作って調査や外来植物の駆除活動をされています。しかし、同種の生態には不明な点が多く、試行錯誤の連続のようです。同種は県の希少野生動植物保護条例の指定種です。県や研究所としても何ができるか検討する必要がありそうです。

講演に続く意見交換会では、今回のテーマに沿って議論が進められ、会場からもいろいろご意見をいただきました。また、休憩時間を利用したポスター発表でも、それぞれのポスターを前に活発に意見交換がされていました。今回いただいたご意見は今後の調査研究に生かしていきたいと思えます。

講演・報告者に再登壇してもらった意見交換会
(進行：堀田昌伸自然環境部長)

当日ご挨拶をいただいた下平村長をはじめ、豊丘村役場の方々には大変お世話になりました。この場をお借りして御礼申し上げます。（畑中健一郎）